

第1次

第1時

本時の 目標

教材文を読んで、自分が興味をもったことについて初読の感想を書くとともに、単元の活動計画について話し合い、学習の見通しをもつことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 要約についての学習を想起する。</p> <p>2 題名から考えたことを発表する。</p> <p>3 教師による範読を聞く。</p>	<p>この単元では、文章の要約をします。これまで、要約についてどんな学習をしてきましたか。</p> <p>○四年上「要約するとき」や四年下「未来につなぐ工芸品」で学習したことを、簡単に想起させる。</p> <p>今回は、筆者が伝えようとしていることではなく、自分が興味をもったことを中心に要約して紹介する活動をします。教材は、「風船でうちゅうへ」です。題名からどんなことを考えましたか。</p> <p>○内容を予想させることで、一読した際の驚きや疑問等を強くさせる。</p> <p>今から先生が本文を読みます。みんなには、それを聞いた後、どんなところに興味をもったのかについて、初読の感想を書いてもらいます。</p> <p>○感想を書くときの視点を示しておくことで、児童に考える準備をさせておく。</p>	<p>●黒板に、「心に残ったこと」「驚いたこと」「すごいと思ったこと」「疑問に思ったこと」「もっと知りたいこと」など、感想を書くときの視点を示す。</p> <p>○「思いやりのデザイン」を要約して、友達と読み合いました。</p> <p>○「未来につなぐ工芸品」で、筆者が伝えようとしていることを捉えて要約しました。</p> <p>●簡単な想起で構わないが、要約のしかたまで思い出せるなら発表させたい。</p> <p>○風船を使って宇宙旅行する話かな。</p> <p>○どうやったら、風船で宇宙まで行けるのかな。</p> <p>●自由に発言させながら、どのようなことが書いてあるのかについての期待を高めるとともに、本教材が説明的な文章であることを確認する。</p>

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>4 初読の感想を書く。</p> <p>5 次時からの活動を確 認する。</p>	<p>それでは、感想を書きましょう。</p> <p>○板書した「感想を書くときの視点」から自由に選 択して、感想を書かせる。I C T機器を使って 入力させてもよい。</p> <p>この単元では、「風船でうちゅうへ」を自分が興味 をもったことを中心に要約して、家の人に紹介する 文章を書きます。時間は、全部で八時間です。次の 時間からの活動について、計画を立てましょう。</p> <p>○学習のゴールを意識させたうえで、「個人で考え る」「グループで話し合う」「全員で話し合う」「発 表し合う」などのカードを使いながら、単元全体 の計画について話し合わせる。</p>	<p>●心に残ったのは、筆者の岩谷さんが、何度失敗して も諦めずに挑戦しているところです。理由は、――</p> <p>○すごいと思ったのは、一号機から実験ごとに装置に 加えられる工夫がよく考えられているところです。</p> <p>理由は、――</p> <p>○全員で要約のしかたを話し合ったり確認したりして から、個人で取り組むようにしたいです。</p> <p>○グループをつくって、アドバイスをし合う時間があ るとよいと思います。</p> <p>●グループについては、どのようなグループにしたら よいかについて問い返し、最初は、興味が似ている 人でグループをつくったほうが、互いにアドバイス しやすくなることを確認する。</p>

第1次

第2時

本時の
目標

それぞれが書いた初読の感想を興味の内容ごとに分類することを通して、紹介文のテーマや相手について考えることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 単元の活動計画を確認する。</p> <p>2 それぞれが書いた初読の感想を発表する。</p> <p>3 何に興味をもったかで、感想を分類する。</p>	<p>前回話し合った活動計画を見てみましょう。今日は、何をしますか。</p> <p>○ICT機器を使って単元の活動計画を拡大提示しておく、全員で確認する。</p> <p>それでは、前回書いた感想を発表し合いましょう。みんなは、どんなところに興味をもったのでしょうか。</p> <p>○興味をもった内容に焦点化して聞かせる。人数や時間の状況に応じて、発表人数を決めておく。</p> <p>○ICT機器で感想を入力させている場合は、画面を共有しながら発表させてもよい。</p> <p>みんなが何に興味をもったかを考えながら、感想を分類しましょう。</p>	<p>●最初の感想を出し合って、興味の内容ごとに分類します。</p> <p>○何を中心に紹介するか（テーマ）を決めます。</p> <p>○私が心に残ったのは、岩谷さんの研究に対する熱心さです。理由は、――</p> <p>○私がすごいと思ったのは、実験装置の工夫です。理由は、――</p> <p>●児童には、事前に端的な表現でカードなどに記入させておく、それを提示しながら説明させることで、後で分類しやすくする。</p> <p>○筆者の岩谷さんの考え方についてのまとまりができません。</p> <p>○実験や装置の工夫について興味をもった人たちがいます。</p>

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>4 何を中心に紹介するかと、紹介する相手を考える。</p> <p>5 似ているテーマの人とグループをつくる。</p>	<p>みんなの感想を聞いたり、分類したりする中で、改めて、どこにいちばん興味をもちましたか。何を中心に紹介するか、それぞれテーマを決めましょう。そして、紹介する相手も考えましょう。</p> <p>○テーマは、最初に興味をもったことと同じ場合もあるだろうし、違う場合もあるだろうが、そのどちらをも認めるようにしたい。ここでは、興味をもったことをはっきりさせることが重要である。</p> <p>それでは、自分のテーマを発表し合いながら、テーマが似ている人どうしで集まって、グループをつくりましょう。</p> <p>○ICT機器を使ってテーマの一覧を共有し、児童にグループをつくらせる。必要に応じて、教師が助言を行う。</p>	<p>◎母に、岩谷さんの研究に対する諦めない心について紹介したい。</p> <p>◎弟に、実験の失敗からアイデアを考えるすごさについて紹介したい。</p> <p>●「筆者の考え方」などのように、抽象度の高いテーマを設定している児童には、岩谷さんのどんな考え方を紹介したいのかを問いかけ、テーマを具体的に考えさせる。</p> <p>※単元全体を通した問いをつくる重要な場面</p> <p>◎私のテーマ「岩谷さんの諦めない心」と、○○さんのテーマ「岩谷さんの前向きな考え方」は似ているから、同じグループになろう。</p> <p>●全く同じテーマを考えている児童がいた場合は、一方がもう一方を頼りすぎてしまうのを避けるために、できるだけ違うグループにしたほうがよい。また、児童の実態に応じて、グループのメンバーについて助言したり、その後の教師の支援の計画を考えたりする。</p>

第2次

第3時

本時の
目標

興味をもったことを中心にした要約のしかたを考えるとともに、文章全体の構成を捉えることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 本時の活動を確認する。</p> <p>2 要約のしかたについて、グループで話し合う。</p> <p>3 文章全体の構成を確かめる。</p>	<p>今日は、何をしますか。</p> <p>○ICT機器を使って単元の活動計画を拡大提示しておき、全員で確認する。</p> <p>「未来につながる工芸品」の学習で、筆者が伝えようとしていることを捉えて文章全体を要約しましたね。その要約（一つ）と、読み手が興味をもったことを中心に要約したもの（二つ）を配ります。これらを比べて気づいたことを、グループで話し合しましょう。（本案P15参照）</p> <p>○既習教材を使って、次の要約を用意しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章全体を要約したもの……一つ ・興味をもったことを中心に要約したもの……二つ（興味が異なるものを一つずつ） <p>「風船でうちゅうへ」を読みましょう。文章のどこに、何が書かれているのかを捉えるために、「初め・中・終わり」に分けて、それぞれに何が書かれているのかを確かめよう。</p>	<p>●児童の反応・板書例</p> <p>○興味をもったことを中心にした要約のしかたを、みんなで確認します。</p> <p>○文章全体の組み立てを確かめます。</p> <p>○興味をもったことを中心にした二つの要約を比べると、本文から抜き出している言葉が違う。何に興味をもつかで、大事な言葉も変わるのかな。</p> <p>○興味をもったことを中心にして要約するときは、元々の文章と構成が変わってもいいんだね。</p> <p>●教材文と要約した文章の対応を確認し、どのようなところに興味があつて、どのような言葉に着目しているのかを考えさせる。</p> <p>○「初め・中・終わり」が、一行空きになっています。</p> <p>○「初め」で話題が提示されていて、「終わり」で今の筆者の思いが書かれています。「中」には、実験したことが書かれています。</p>

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>4 事例のまとまりについて考える。</p>	<p>「中」をさらに分けるとしたら、幾つのまとまりになりますか。実験や装置ごとに、段落をまとめてみましょう。</p> <p>○最初に、幾つにまとめたのかだけを発表させ、その後で、その根拠や理由について説明し合い、全体で話し合わせる。</p> <p>今日の学習では、興味をもったことを中心に要約するときのポイントを話し合い、文章全体の組み立てを確認しました。次回は、自分が決めたテーマに関わる言葉を見つけていくために、「中」の内容や書かれ方を確かめていきましょう。では、今日の学習の振り返りを書きましょう。</p> <p>○常に、何のためにその活動をするのかを児童が意識できるように留意して、説明や指示などを行う。</p>	<p>●多くのまとまりに分けた児童から、少ないまとまりに分けた児童の順に発言させていくと、事例のまとまりに気づきやすくなる。</p> <p>○興味をもったことを中心にした要約では、何に興味をもつかで、本文から抜き出す言葉が変わると思います。</p> <p>○文章全体が「初め・中・終わり」の組み立てで書かれていて、「中」にそれぞれの実験の内容が詳しく書かれていることが分かりました。</p> <p>●児童から出された、興味をもったことを中心にして要約するときのポイントについては、掲示したり、ICT機器で共有したりするなどして、次回以降も全体で確認できるようにする。</p>
<p>5 本時の学習をまとめ、次時の活動を認める。</p>		

第2次

第4時

本時の
目標

各事例の内容や書かれ方について話し合うとともに、テーマに応じてどのような言葉に着目したらよいかについて考えることができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 本時の活動を確認する。</p> <p>2 各事例の内容や書かれ方について、グループで話し合う。</p>	<p>今日は、何をしますか。</p> <p>○ICT機器を使って単元の活動計画を拡大提示しておき、全員で確認する。</p> <p>「中」のそれぞれのまとまりには、何が説明されていますか。内容や書かれ方の共通点・相違点について、グループで話し合います。</p> <p>○児童に共通点や相違点の例を幾つか出させてから、グループで話し合わせる。</p> <p>グループで出た意見を発表してください。</p>	<p>●グループで出た意見を板書しながら、それぞれの実験の内容を確認する。また、実験に関わらない②、③段落に何が書かれているのかについても確認する。</p> <p>○「中」のそれぞれのまとまりについて、内容と書かれ方について話し合います。</p> <p>○自分の紹介するテーマに合った言葉を見つけます。</p> <p>○岩谷さんの考えや気持ちを書かれているまとまりと、そうじゃないまとまりがあるね。</p> <p>○多くのまとまりで、最初に装置の説明があつて、その後に実験結果が書かれている。</p> <p>○四号機とその失敗から考えたことは、特に詳しく説明されている。</p>

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>3 教師が出したテーマの例を基に、どのような言葉に着目するとういかを、全体で話し合う。</p> <p>4 自分のテーマで、どのような言葉に着目するとよいかを考える。</p>	<p>例えば、「岩谷さんの研究に対する諦めない心」がテーマの場合、どのような言葉に着目するとういでしょうか。</p> <p>○テーマに応じた言葉への着目のしかたを理解させることが大切なので、なぜその言葉に着目するとういのかの理由を説明させる。</p> <p>それでは、みんなのそれぞれのテーマでは、どのような言葉に着目していけばよいでしょうか。考えて、実際に抜き出してみましよう。「もっと読もう」(108ページ)の文章からでも構いません。</p> <p>○最初に、「実験の結果に関わる言葉」「筆者の考えが表れている言葉」など、言葉を見つめるための観点を考えさせ、その後、実際に言葉を抜き出させる。次時もこの活動が続けるため、本時の段階では、全ての言葉を抜き出しきれなくてもよい。</p> <p>○次時以降、友達に相談できることを伝え、本時は、できるだけ個人で考えさせる。必要に応じて、教師は支援を行う。</p>	<p>●付箋紙や「学習者用デジタル教科書＋教材」のマイ黒板を使って、着目した言葉を抜き出させる。その際、着目した観点ごとに色を変えておくと、次時以降の活動がしやすくなる。</p> <p>●具体的叙述を問い返し、「指導者用デジタル教科書（教材）」のマイ黒板を使って、実際に本文を抜き出し、要約する過程の途中までを提示する。</p> <p>※要約のしかたを具体的にイメージさせる重要な場面</p> <p>◎私は、実験の失敗からアイデアを考えるすごさについて紹介したいから、失敗の部分やそれをどのように改善したのかに関わる言葉に着目しよう。</p> <p>◎私は、岩谷さんの前向きな考え方について紹介したいから、岩谷さんの考え方が表れている言葉に着目しよう。</p>

第2次

第5時

本時の
目標

自分のテーマに合った言葉を、本文から抜き出すことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 本時の活動を確認する。</p> <p>2 自分のテーマに合った言葉を抜き出す。</p> <p>3 次の時の活動を確認する。</p>	<p>今日は、何をしますか。</p> <p>○ ICT 機器を使って単元の活動計画を拡大提示しておき、全員で確認する。</p> <p>前回の最後、自分のテーマでは、どのような言葉に着目するとよいかを考え、少しでも抜き出しました。今日も、引き続きテーマに合った言葉を抜き出しましょう。そして、今回は、グループのみんなに、自分のテーマや抜き出した言葉などを発表します。そのための準備もしましょう。時間に余裕のある人は、抜き出した言葉を使って、要約してみよう。</p> <p>○ 友達への相談コーナーを設け、困った際にはそのコーナーで友達に相談できるようにする。</p> <p>今回は、今日まとめたことをグループのみんなに発表し、アドバイスをし合います。各自、発表の準備をしておきましょう。</p> <p>○ 次回に向けて、必要な児童に支援を行っておく。</p>	<p>● 次時のグループでの活動の流れを押さえておく。</p> <p>〈発表する内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のテーマ ・ 本文から抜き出した言葉 ・ どんな観点で言葉を抜き出したのかと、その理由 ・ 相談したいこと <p>〈発表方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 機器やホワイトボードを使って、抜き出した言葉を示しながら説明する <p>〈発表の聞き方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 抜き出した言葉がテーマに合っているか ・ 抜き出した言葉で、テーマに合った要約ができそうか <p>● 教師は、児童の準備の様子を見ながら、必要に応じて支援を行う。</p>

第2次

第6時

本時の
目標

グループでアドバイスをし合うことを通して、抜き出した言葉を見直すことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 本時の活動を確認する。</p> <p>2 グループでアドバイスをし合う。</p> <p>3 抜き出した言葉を見直す。</p> <p>4 見直した考えを発表し、学習の振り返りを行う。</p>	<p>今日は、何をしますか。</p> <p>○ICT機器を使って単元の活動計画を拡大提示しておき、全員で確認する。</p> <p>では、グループのみんなに発表し、アドバイスをし合いましょう。</p> <p>○四人グループで一人八分ずつなどの時間の目安を伝え、教師は必要なグループに支援を行う。</p> <p>では、今、グループでもらったアドバイスを基に、抜き出した言葉を見直しましょう。</p> <p>○付箋紙や「学習者用デジタル教科書+教材」を使って、付加・修正を行うように促す。</p> <p>友達からのアドバイスを聞いて、どのように変えよう、またはこのままでいいと思いましたか。</p> <p>○付加・修正した理由、または変えなかった理由もいっしょに発表させる。</p>	<p>〔C〕グループで、テーマと抜き出した言葉を発表し合い、互いにアドバイスをします。</p> <p>〔C〕アドバイスを聞いて、抜き出した言葉を見直します。</p> <p>〈活動の流れ〉</p> <p>①発表</p> <p>②必要に応じて質問</p> <p>③全員からのアドバイスや話し合い</p> <p>〔C〕○○さんの言うように、岩谷さんの前向きな考え方を伝えるためには、失敗に関わる言葉も入れたほうがよさそうだ。</p> <p>●付加・修正した理由、または変えなかった理由についても考えさせる。</p> <p>●児童の発言を受け、言葉を付加・修正した（または、変えなかった）ことによる効果について、全体で確認する。</p>

第2次

第7時

本時の
目標

紹介文の書き方について話し合い、自分が決めたテーマに沿って紹介文を書くことができる。

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>1 本時の活動を確認する。</p> <p>2 紹介文の書き方について話し合う。</p> <p>3 自分が抜き出した言葉に基づき、紹介文を話してみる。</p>	<p>今日は、何をしますか。</p> <p>○ICT機器を使って単元の活動計画を拡大提示しておき、全員で確認する。</p> <p>まず、紹介文の書き方を確認しましょう。「未来につなぐ工芸品」の紹介文を配ります。この紹介文と教科書111ページの文章を見て、気づいたことはありますか。書き方に共通点はあるでしょうか。</p> <p>○「未来につなぐ工芸品」の紹介文は、第3時に配布した要約を基に、事前に作成しておく。</p> <p>○ICT機器を使って、紹介文を見比べられるようにする。</p> <p>紹介文を書く前に、少しの時間だけ、その場で考えた紹介文を、隣の人と自由に伝え合ってみましょう。</p> <p>○書き始める前に自由に話させることで、書くことが苦手な児童に、文章の組み立てのイメージをもたせる。</p>	<p>〔C〕抜き出した言葉を使って文章を要約し、紹介文を書きます。</p> <p>〔C〕どちらも、最初に何の話か、次に文章の要約、最後に感想が書いてあります。</p> <p>〔C〕文章を要約する部分は、前の時間までに抜き出した言葉を使って、短くまとめるとよさそうです。</p> <p>●出された意見に対して、全員で文章を確認し、書くときのポイントとしてまとめることで、各自が書くときに意識することができると。</p> <p>●第3時の学習を想起させ、興味をもったことを中心にして要約するときのポイントについて振り返るよう促す。</p> <p>●児童が伝え合う様子を見ながら、言葉に詰まっている児童には、書きだしを示したり、言葉のつなぎ方をアドバイスしたりする。全体で共有したほうがよい内容の場合には、取り上げて全体に伝える。</p>

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>4 紹介文を書く。</p> <p>5 次時の活動を確認する。</p>	<p>では、紹介文を書いてみましょう。</p> <p>○友達への相談コーナーを設け、困った際にはそのコーナーで友達に相談できるようにする。</p> <p>○教師は必要に応じて支援を行う。</p> <p>次回までに、みんなが書いた紹介文を家の人に読んでもらいましょう。次回は、家の人からの感想を報告し合います。また、テーマの異なる人たちでグループをつくり、互いに読み合って感想を伝え合います。</p> <p>○全員が家の人からの感想を報告できるように、次時の授業までに期間を置く。</p>	<p>●手書きで書かせるか、ICT機器を使って入力させるかは、最後の交流場面の方法も考慮しながら、児童の学習経験や実態に応じて検討する。</p> <p>●紹介文の進捗状況や報告の状況を見て、教師は必要に応じて支援を行う。</p>

異なるテーマの友達どうして紹介文を読み合い、感想を伝え合うことを通して、一人一人の感じ方に違いがあることに気づくことができる。

13

主な学習活動	主な発問・留意点	児童の反応・板書例
<p>3 全体で交流する。</p> <p>4 単元全体の振り返りをする。</p>	<p>友達で紹介文で、これは紹介したいというものがあれば、推薦してください。</p> <p>○推薦された紹介文は、ICT機器で提示したり、音読してもらったりするなどして、全員に共有する。</p> <p>この単元では、筆者が伝えようとしていることではなく、自分が興味をもったことを中心に要約して紹介する学習をしました。具体的にどのようなことを学びましたか。この学習を通して、「分かったこと」「がんばったこと」「もっと知りたい・やってみたいこと」を書きましょう。</p> <p>○ノートまたはICT機器に記録させる。</p>	<p>◎○○さんの紹介文が、とてもよかったです。どんなところがよかったかというと、――</p> <p>●推薦された紹介文を全体で見ながら、児童の発言を基に、よいところを確認する。推薦した児童以外からも、よいと思ったところを発表してもらう。</p> <p>◎同じ文章を読んでも、興味をもつところは人それぞれだと思った。</p> <p>◎自分が興味をもったことを中心に要約するときには、それに関わる言葉を見つけて、それらをつないでいくとよいと分かった。</p> <p>◎岩谷さんの実験について続きが知りたいと思った。</p>

資料

「未来につなぐ工芸品」を、興味をもったことを中心に要約した例

例①

興味をもったこと

日本の文化やげいじゅつを未来にのこす職人

要約

職人の手仕事で一つ一つ作られているものが、「工芸品」である。職人は、使う人のことを大切に思い、ていねいに工芸品を作っている。日本人の生活の変化などから、昔にくらべて工芸品を使う人がへり、職人の数も少なくなっているが、職人が作るさまざまな工芸品があるからこそ、日本の文化やげいじゅつを未来にのこすことができる。そのため、筆者は、工芸品について自分が本当によいと感じたことを、職人がこめた思いとともに伝えている。

例②

興味をもったこと

かんきょうにやさしい工芸品

要約

日本各地で、その土地の気候やしげんをいかして作られた伝統的な工芸品は、材料や作り方の面で、かんきょうへの負荷が少ない。また、長く使えるように作られているので、ごみをへらすことにもなる。例えば、岩手県の「南部鉄器」は、自然にある素材で、電気や化学薬品を使わなくても作ることができる。また、さびにくく、じょうぶなので、五十年、百年と使い続けることができる。それらの点で、かんきょうにやさしいといえる。そんな工芸品を、わたしは未来の日本のこしたい。

■ 単元構成の考え方とポイント

本単元では、児童が教材文に対して興味をもったことを中心に要約して紹介し合うことで、他者との感じ方の違いに気づき、それぞれのよさを見つけることが求められている。本単元において、児童が主体的に活動し、ねらいを達成するためのポイントには、次の三点が挙げられる。

一点目は、第一次において、児童それぞれの初読の感想を分類し、自分が何を中心に紹介するか（テーマ）を選択する場面である。初読の感想を全体で交流しながら分類することで、友達の興味と自分の興味を比較することができ、自分にとって関心の高い事柄が明確になってくる。そうすることで、「自分が選んだテーマで要約するには、どうすればよいのだろうか。」という本単元を通した自分の問いをもつことができる。

二点目は、第二次において、全体で教材文を読む場面である。本単元では、段落ごとに分けて内容をなぞるように読む活動は行わない。児童は、自分たちの活動のゴールに向けた準備として、何がどこに書いてあるのかを確認するために読んでいくことになる。具体的には、文章全体の構成を確認したうえで、「中」のそれぞれのまとまりにどのような情報が入っているのかと、その書かれ方を確認する。事前に、それぞれの児童にしっかりと音読をさせ、おおまかな内容を捉えさせておきたい。

三点目は、第二次から第三次にかけて行うグループ活動である。第二次では、似たテーマを選択した児童どうしのグループで活動をする。そうすることで、テーマに合った

言葉がどれかや、抜き出した言葉をどうつないだらよいかなどについて、相談や助言をし合うことができる。第三次では、異なるテーマの児童どうしのグループで紹介文を読み合う活動を行う。そうすることで、互いの感じ方の違いとそれぞれの興味に応じた要約のしかたの違いを実感することができる。

■ 授業を進めるうえでのポイント

児童が要約のしかたについて理解し、自分で取り組んでいけるようにするために、次のような手立てを講じる。

まず、文章モデルの提示である。文章全体の要約を行ったことのある教材を使い、異なる興味の観点から要約したものを二つ提示することにより、全体を要約したものとの違いや興味の観点による要約の違いについて話し合うことができる。

次に、教材文の「中」の内容や書かれ方について話し合う活動の設定である。「中」のそれぞれのまとまりでは、装置の説明・工夫した点、失敗の状況、筆者の考察、実験に対する思い等が説明されている。そのような情報の見方を児童と確認し、全体で共有することで、それぞれの児童が言葉を取り出す際の参考にすることができる。

そして、一つのテーマ例を挙げ、どのような言葉に着目すればよいかについて話し合う活動の設定である。全体で、テーマに合った言葉を見つげるための観点を考えたり、抜き出した言葉を使って要約するイメージをつかんだりしておくことで、各児童が自分の活動に取り組みやすくなる。